

株式会社 メディカルシップ 様

ヒューマンエラー対策研修 3時間コース プログラム



研修日

2016年11月24日 15:00～18:00

ヒューマンエラー対策 研修 3時間コース プログラム

項目	内容(ポイント)	
1. はじめに		15分
ヒューマンエラー対策の目的 航空業界におけるヒューマンエラー対策 ヒューマンエラー対策の基本的考え方	損失の防止、お客様に信頼される商品の提供、辛い思いをする仲間を出さない 航空業界のヒューマンエラー対策の歴史 エラーをゼロにする事は出来ないが、その影響をコントロールすることは可能	
2. なぜヒューマンエラーをゼロに出来ないのか ～人間特性～		60分
人間の脳の情報処理メカニズム 視野の限界と錯覚 パターン認識 記憶の限界 行動のエラーと判断のエラー 意識の特徴とエラー防止法 意識的なルール違反	エラーは脳の情報処理の過程で起きる 人は外部からの情報の大部分を目から取り入れており、その能力の限界を理解する 人は自分の都合の良いように情報不足を補って物を認識する 記憶は失われ、変形するため、形に残す/形のあるもので確認する必要がある 情報処理における脳の関与レベルによりエラーの分類が異なる 意識は脳の機能を活性化したり抑制するためヒューマンエラー対策には重要である 意識的なルール違反(バイオレーション)の危険性を認識する	
3. ヒューマンエラー対策の概念 ～ヒューマンエラーが事故に至る経緯～		45分
ヒューマンエラーとは ハインリッヒの法則 エラーチェーン(エラーの鎖) SHEL(シェル)モデル 事故に対する考え方	ヒューマンエラーとヒヤリハットの違い 事故もヒヤリハットも結果に至る経緯は同じ。ヒヤリハットのうちに対応する ヒューマンエラーが直列のチェーン(鎖)を構成し、事故や不具合に至る SHELモデルで体系的、効率的な原因の分析と対策立案が可能 再発防止のためには責任追及よりも原因究明が大切	
4. ヒューマンエラー防止法と安全を支える仕組みと行動		60分
エラーをコントロールして事故を防ぐ2つの方法 チームマネージメント コミュニケーションの重要性 権威勾配 仕組みと行動	エラーを早期に「気づき」修正する方法とエラー自体の発生を未然に防ぐ方法 リソースを活用してチームの力を最大限に発揮(気づきの共有と相互活用) コミュニケーションの明瞭度は受け手に理解される度合い 権威勾配が急だと、人的リソースを活用できない 安全を支える仕組みと行動	